

## 4. 危険生物（スズメバチ・セアカゴケグモ・ヒアリ等）発見時の対応

### 1. 日頃から留意すべき事項

〈スズメバチ〉

- ・スズメバチは毒がある限り何度でも攻撃的に刺す上に、毒液を撒き散らす。まき散らした毒液は仲間を呼ぶ役割がある。繁殖時期の8～10月頃に攻撃的になる等の危険性について児童・生徒に理解させる。
- ・巣を見かけたときは、近くで騒がず、巣に触らないようにして静かに後ずさりながら離れるよう児童・生徒に指導する。

〈セアカゴケグモ〉

- ・セアカゴケグモは、突かれると死んだまねをするなど攻撃性はないが、毒をもっておりかまれると痛みが全身に広がり、悪化すると寒気や吐き気があらわれる。幼児児童生徒にその危険性を認識させ、決して素手で触らないように指導する。定期的に生息調査を行い、生息が確認された場合は決して素手で触らず、市販の殺虫剤を噴霧するか、踏みつぶす等の方法で駆除すること。
- ・セアカゴケグモは、乾燥した暖かいところを好み、屋外のブロック、植木鉢、プランターなどの下、排水口の側面、マンホールの裏、庭石、石碑等の間、くぼみなどに主に生息している。

〈ヒアリ〉

- ・ヒアリは極めて攻撃性が強いとされており、刺された際には、アルカロイド毒により、熱感を伴う非常に激しい痛みを覚え、水疱状に腫れ、その後、膿が出る。
- ・ヒアリの毒に含まれる成分に対してアレルギー反応を引き起こす例があり、局所的、または全身にかゆみを伴う発疹（じんましん）が出現する場合がある。ヒアリの毒は、ハチ毒との共通成分などが含まれており、ヒアリに刺された経験がなくてもハチ毒アレルギーを持つ人は特に注意が必要である。ヒアリに刺された人がアナフィラキシー症状を引き起こした場合、アドレナリンを注射するなどの適切な救急処置をとる必要がある。
- ・ヒアリを見つけた場合は、むやみに駆除するのではなく、環境省ヒアリ相談ダイヤルや最寄りの環境省の地方環境事務所、都道府県の環境部局に相談する。（環境省ヒアリ相談ダイヤル 0570-046-110）

【見分け方】・赤茶色で、ツヤツヤしている。おしりの色は暗め。体長は2.5～6.0mm

- ・土で大きなアリ塚を作り、集団で生活する。  
→攻撃性が強く、棒などでアリ塚をつつくと、集団で出てきて襲いかかる。

### 2. 緊急対応のポイント

＜具体的事例①＞

児童が小学校内でスズメバチの巣を発見し、巣に石を投げた、多数のスズメバチが巣から発生し児童を刺した。

#### 周囲にいた児童から教職員への連絡

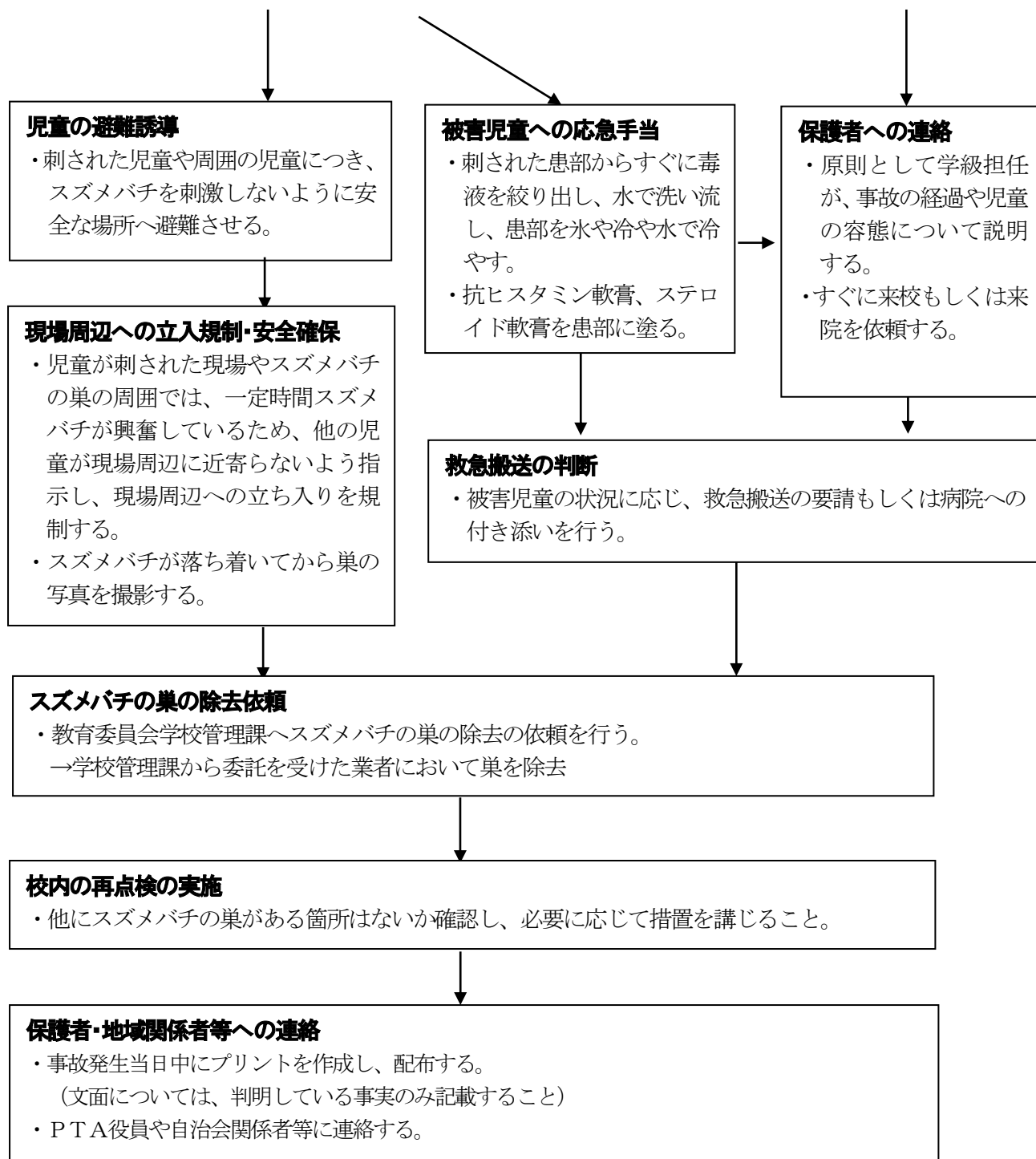
- ・直ちに複数名で現場へ向かう。

#### 教職員が刺された児童とスズメバチの巣を確認

- ・刺されないよう慎重に行動する。
- ・①被害児童の手当担当者
- ・②他の児童の避難誘導・安全確保担当者
- ・③校長への状況報告者と役割を分担して対応に当たる。

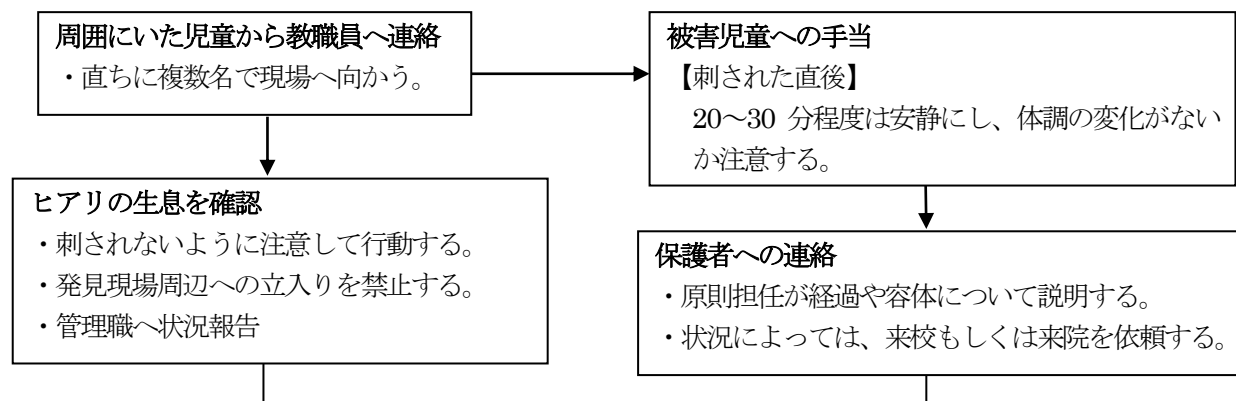
#### 校長の対応

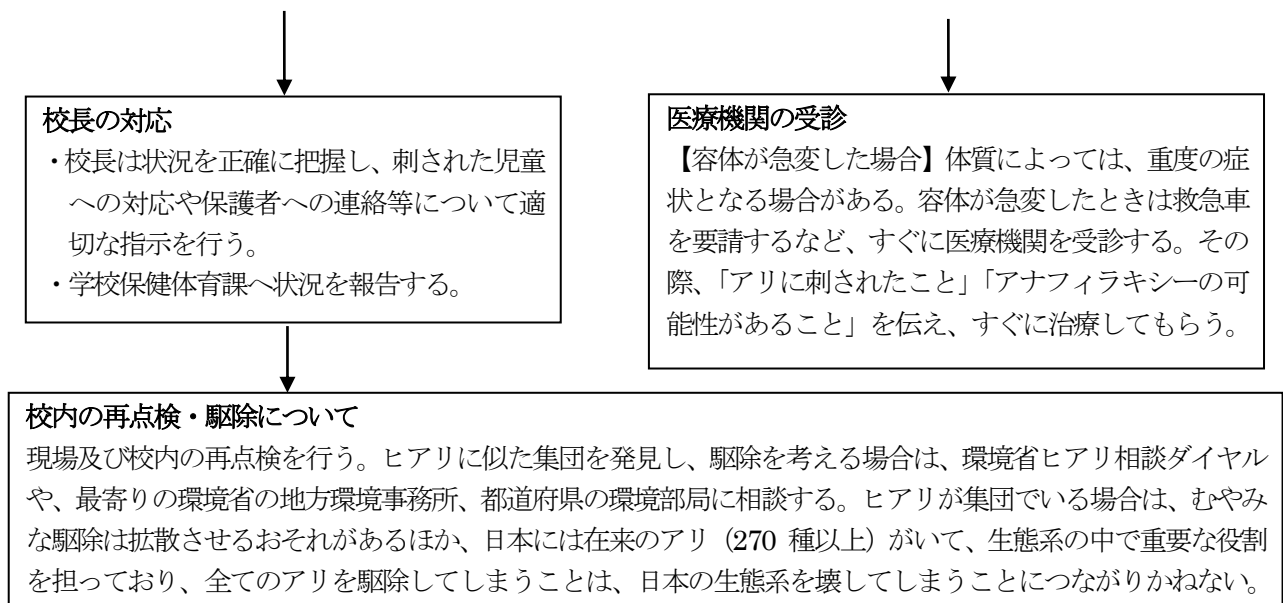
- ・校長は状況を正確に把握し、刺された児童への対応や保護者への連絡等について、関係教職員に適切な指示をする。
- ・校長は教育委員会の学校保健体育課、危機管理担当へ連絡する。



### <具体的事例②>

休憩時間中、児童がヒアリを発見して触ったところ、指先を刺された。





### 3. 事後の対応のポイント

幼児児童生徒に危険生物の危険性、素手で絶対に触らないことを再度指導する。点検方法について検討し、再発防止につなげる。

※クビアカツヤカミキリの成虫が確認された場合は、上記に準ずる対応をし、その場で教職員が駆除をする。